

大岡山 水環境の専門家養成

岡 山 大
08年度から実践教育を本格化

国内外で活躍できる水環境の専門家養成を目指し、岡山大は二〇〇八年度から、環境理工学部と農学部を対象に実践型の教育プログラムを本格化させる。座学に加え、環境浄化が課題となっている岡山市南部の児島湖でのフィールド実習などを行い、多角的に水環境の在り方を学

ぶ。

両学部の二年生の科目に、フィールド実習と座学を組み合わせたプログラム(四単位)を導入。実習では、児島湖の流域や人工干潟などで水質・生物調査を行ったり、気象観測装置を使って気温、湿度といった

データを収集・解析。座学として、水環境行政や水辺の動植物の生態について行政関係者や研究者から講義を受ける。

津島キャンパス(岡山市津島中)の環境理工学部棟の東側(三千六百平方メートル)に整備。自然環境を再現することで、生態系を維持するために最適な水循環の仕組みを探る。

個性・特色ある学生教育を支援する文部科学省のプログラムに採択され、同省が〇九年度までの事業費の一部を支援する。

夏休みには、国際的視野を養うためタイ・バンコクのカセサート大学での特別コース(二単位)へ、学生派遣も計画しており、沖陽子環境理工

学部長は「地球温暖化が、水環境に与える影響への対応は急務。一連のプログラムを通じ、学生たちに自ら率先して行動し、問題解決できる能力を身に付けさせたい」としている。

(河内慎太郎)